



「こんにちは 市長です」

11月15日号

県から一方的な団地造成中止の連絡があって「どうするか？」迷った。太田市は団地造成などやったことはない。引くか進むか、総額100億円規模の事業である。地主さんには買い取り価格の内示段階にあった。期待しているという声を聞いていた。住宅ニーズがあるのか、商品化するのに必要なことは？自分で決断するしかない。短い期間に猛勉強した。前例のないことをやる。万が一失敗すれば市民に多大な迷惑をかける。辞職は覚悟であった。それが「パルタウン城西の杜」である。

土地開発公社が手掛けた団地造成は189ha、総額320億円になった。さくら工業団地、新田下田中工業団地、石原地区住宅団地、東長岡工業団地、おおた渡良瀬産業団地、そして新田東部工業団地、境北部工業団地を造成した。「よくもまあ、こんなにやってきたなあ」という感がある。太田市の地図が大きく変わった。雇用をつくってきたし、人の交流が一気に増えた。今、渋滞解消のために県が積極的になってくれている。成果も大きい。土地の造成販売という答えが求められる仕事に職員は神経を集中させた。また成果は収益に表現される。収益は職員の人件費という理解でいるから、その分は一般会計に繰り入れた。17億5500万円になった。残りの事業の清算はこれからである。西地区の事業（図書館、保健センター、新田行政センターなど）が始まるので、今後の繰り入れ額は西地区に充てられればと思っている。失敗もせずに、よくも大事業をやってこられたものである。

土地開発公社は土地価格が右肩上がりの時代にできた。土地価格が上がると公共事業ができなくなってしまう。「土地の先行取得」が必須だった。今は土地の値上がりが無い。毛里田の商業施設が団地造成の最後である。そろそろ公社解散の時期を迎えている。(10/23記)